

福井の佛壇文化にこだわり お客様とのつながりを再構築

清水佛壇店（大野）

福井県大野市の清水佛壇店の創業は大正元年。創業者である祖父の清水健三は岐阜県郡上八幡の出身であった。越前大野は美濃郡上と九頭竜湖を挟んで結ばれており、健三は大正元年六月一日に当時の大野町春日上に店を構え、その後二代目清水一朗の時代に大野町寺に移転、戦後の昭和二十四年に大野町五番街商店街に移転し、昭和四十二年に現在地に工場移転、三代目の清水英男氏の時

代となる昭和五十二年と昭和六十三年に新築工事を行っている。

三代目となる現社長の清水英男氏は昭和二十年生まれ。そして四代目となるのが清水啓宏さん。今年三十四歳となる啓宏さんは約八年前に実家である清水佛壇店に戻って来たが、学校を卒業後は大阪と京都で古着を扱う店で働き、海外からも古着を仕入れる仕事をしてきた。「今もオリジナルの念珠

袋を制作する予定です。布関係のものは好きですね。地元で藍染めをしている八十歳になるおじいちゃんの藍染めの布を使った念珠袋を制作しようと思っています」と啓宏さんは語る。

大野市は浄土真宗本願寺派も多いが、清水社長は「お東さんもあるし、高田派、興正派、佛光寺派もある。福井県に本山派のお寺さんもある。曹洞宗の本山永平寺も近くなので曹洞宗のお寺様も多い。幅広い宗派の知識が必要なんです」と言う。

展示佛壇のメインはやはり金佛壇。自家製の大型福井佛壇が並ぶ。都市型佛壇は積極的に販売していない。二階には大野で作られた木地が展示してあるが、やはり地元で作られた佛壇を販売することにこだわって行くことが、清水佛壇店のポリシーだ。

今回取材で見せて頂いたのが大正時代の「物品買受譲受売渡譲渡明細帳」。

例えば大正七年四月二十三日には百五拾五円で二百檀（代）三方開ビラキ本金仏壇壹本、大野町四番の鶴岡某などと記されている。この明細帳によれば福井檀という名称もすでに登場しており、福井の佛壇の様式が確立していたことが分かる。

店舗には工房も併設されているが、ここでは佛壇仏具の新調修理の他、祭礼具の修理も行われる。啓宏さんが取り組んでいるのが、以前お佛壇を購入して下さったお客様へのご挨拶ハガキを出すこと。

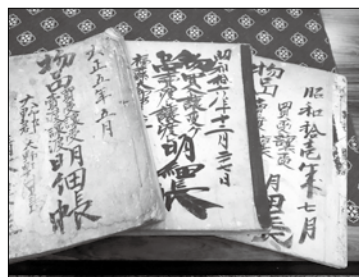
壇をご購入して頂いた方にのみ順にお便りさせて頂いています」という案内ハガキには、お地藏様のイラストと、清水佛壇店ご一家のイラストが描かれている。

「佛壇は心がやすらぐ場であって欲しい」という清水佛壇店の願いが、越前大野の佛壇文化を守り育てる。

◎清水佛壇店 福井県大野市美川町十一十二 TEL0779(六六)三八〇〇 FAX0779(六六)三八五三



自家製の福井佛壇の前で 清水英男社長（左）と清水啓宏さん（右）



店の売買記録として残る貴重な資料
福井檀の記録も見える



お客様との関係を再構築する案内ハガキ。お客様からの問い合わせもあり、重要なツールになっている。